

教員養成改革の成果と課題

—「三位一体改革」がめざしたもの—

N. Takaoka

島根／鳥取大再編計画の概要

- 1 教員の移動(鳥取大→島根大 3名)
- 2 学生の移動(教員養成課程交換)
- 3 島根大学教育学部学校教育課程170名の整備

- 1 両大学「教員養成系学部再編に関する協定」締結(平成15年8月)
 - 2 平成16年4月 新学部発足
- 県境を越えた学部再編の唯一の成功事例

中教審「答申」(平成18年7月)に示された教員養成に関する制度改革

☆教職課程の改善(学部改革／全学センター)

☆教職大学院制度の創設

☆教員免許更新制度の導入

地域社会の教員養成への期待
☆学校の再生・改革の担い手
☆教育への情熱にあふれる教師
☆優れた実践的力量を有する教師の育成
☆信頼される人格を有する教師の育成 等

島根大学教育学部 学士課程の改革課題

- 教員養成専門学部としての自らの社会的使命を踏まえ、教員養成課程の充実に資する教育改革を実施し、特色ある教育活動に取り組む。
- 学部教育のあらゆる分野について自己点検・評価を行い、時代と社会が求める資質の高い教員の養成を実現するための方策を検討し、実施する。

教育学研究科の改革課題

- 中教審答申が提言する「教職大学院」の目的、趣旨等を踏まえ、将来にわたる設置の可能性を見据えながら、既存の教育学研究科について抜本的な見直しを行う。
- 現職教員研修への貢献および学部新卒者の教員としての資質向上を目的とし、「高度な教育的実践力」育成プログラムの開発を進め、現行組織の改善に取り組む。

平成16年度以降の島根大学教育学部の歩みと成果：

「あり方懇」が示した「教員養成系大学・学部の再編による教育機能の強化」を全国で唯一組織的に具体化した本学教育学部は、山陰地域を対象とする教員養成特化型学部、地域における教員養成基幹学部となった。このことは、本学部が、県境を越えて、地域の教員の養成・研修のすべての局面において両県教育委員会等の関係諸機関との連携を強化し、かつ社会が求める優れた資質、教育的実践力を有する教員の育成に貢献することを宣言したことにはほかならない。

平成16年学部改組の際に、完成年度(平成19年末)に向けて順次検討すべき課題を次のように定めた。

- 1 「教師を育てる」という人材養成目標のもとで、そこに至る経路を明示し、着実に個別具体的な目標を掲げ、「免許法」依存型の養成教育からの脱皮を図る。
- 2 「1000時間体験学修の必修化」を皮切りに、子どもとの交流や学校における教育的体験を通して、高度な教育的実践力の育成をめざす独自の教育プログラムを構築し実践する。
- 3 学生自らが「自身の教師力の育ち」を実感でき、バランスの取れた教職能力の向上を図るための「評価」方法を開発する。
- 4 専門科学から教職科学としての「教科専門」への脱皮をめざし、「教育内容学」の構築を進める。

教員養成
基幹学部
としての
教員養成
教育改革
の 実 施

教員の意識改革 … 「現代社会と学校が求める優れた教育的実践力の育成こそが学部の使命であること」
「独自のFDの推進による専門職養成への積極的関与の姿勢の醸成、『教員養成嫌い』の払拭」

養成教育内容・方法の抜本的改善 … 「1000時間体験学修の必修化による豊かな人間力、教育的情熱、
教育的実践力の基礎、協調能力(人間関係、コミュニケーション力)の育成」、「免許法の最低基準を凌駕する専門科学の確実な習得」、「教育内容学としての『教育内容構成研究』科目の開講(専門と教職の融合)」、「主専攻・副専攻制の導入による多様な教職能力の開発」

基盤整備：特別教育研究経費(平成17年～19年)「21世紀の教育改革を担う新たな教員養成教育プログラムの構築」

具体的成果

平成
17年

教員養成GP採択

戦略的FDによる資質向上スパイラルの実現

—地域教員養成基幹学部のミッションを達成する「協同」の構築—

平成
19年

特色GP採択

確かな教師力を育む多角的評価の実現

—「1,000時間体験学修」「学生プロフィールシート」「面接道場」で可視化する教師としての自己成長—

平成
20年

教育GP採択

「環境寺子屋」による理科好き教師の育成

—豊富な環境リテラシーを有する「理科に強い義務教育教員」の育成—

島根大学教育学部が取り組む「教員養成三位一体改革」
—地域の学校教育の未来を担う教師を育成する、新たな教師教育システムの構築—

目標・目的：山陰地域における教員養成基幹学部としての社会的使命の達成

教員養成学部
に対する地域の
期待

現職教育 … 「スクール・リーダー」、「学校・学級のマネジメント能力」、「教科の指導力・授業実践力」、「科学的知のキャッチアップ能力」、「特別支援教育」、「免許更新講習」

養成教育 … 「豊かな人間力」、「教育的情熱」、「高度な教育的実践力」(大学院)、「教育的実践力の基礎」(学部)「協同、協調能力」、「新たな課題への挑戦」、「専門科学の確実な習得」

附属学校…「学校改革のリーダー」、「一貫教育プログラム開発」、「小・中一問題の解決」、「特別支援教育」

義務教育教員養成に特化した学部教育の実現(平成16年度構築)

- ☆「1000時間体験学修」 → 豊富な学校と子ども体験がもたらす教職への意識づけ、社会性の確立、カウンセリング・マインドの形成
- ☆「教育内容学の構築」 → 専門科学と教育的実践力の高度な融合
- ☆「教員養成GPIによるFD戦略の構築」 → プロファイル・シートによる自己評価と外部評価、学修目標と達成度の可視化

教育学研究科
の全面改組

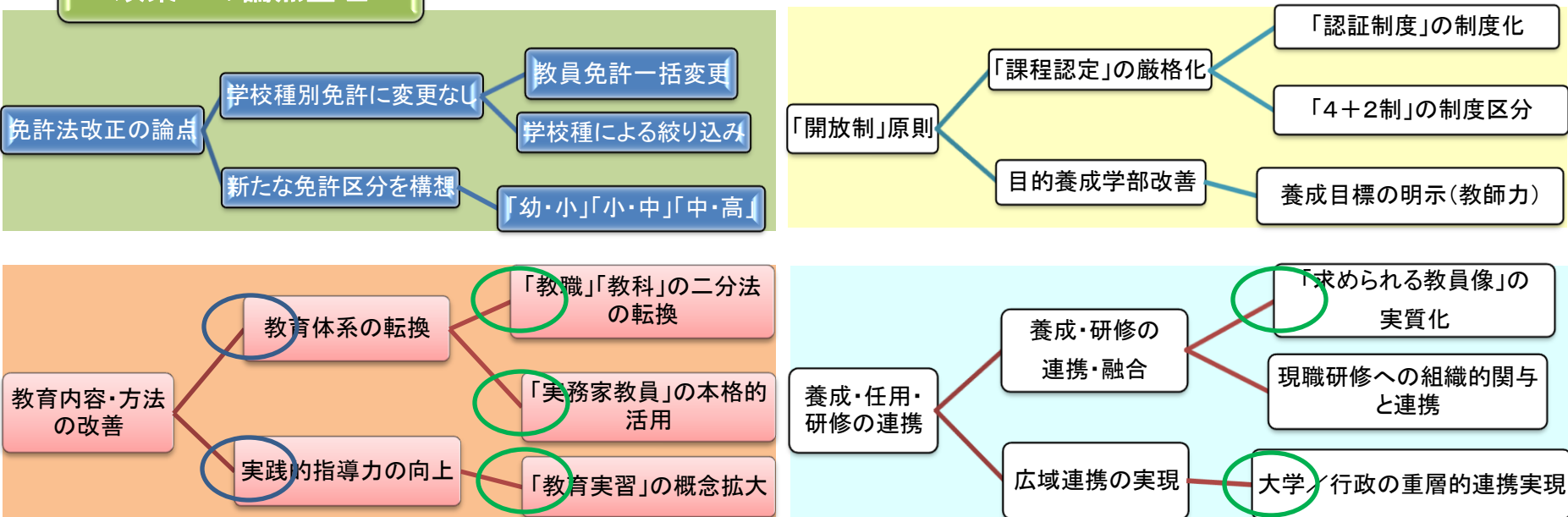
1. 現職教員の職制、教職キャリア、経験に基づく個々の専門職性向上ニーズに対応する個別学修プログラムを提供
2. ストレート・マスターに、学校種、専門教科に応じた高度な教育的実践力育成プログラムを提供
3. 学校と社会のニーズを踏まえた高度な教育的実践力育成を実現し、持続可能な安定的教育組織の構築

附属学校改革

- ☆地域の教育改革をリードする幼・小・中一貫教育の先導的試行 → 学校改革のトップリーダーとして、新たな教育課題の解決に貢献
- ☆教育実習の体系化、プログラム開発 → 4年一貫の教育実習プログラムによる学生教育の改善に寄与(16年度から実施)
- ☆大学院生の長期インターンシップ体制の構築 → 多様な教育方法、少人数教育等の実践的プログラムの提示

「6年制」をめぐる論点整理の到達点と本学部の課題

政策上の論点整理



島根大学教育学部の現状は、

○ と ○ は第一期中期目標期間に「ほぼ達成」、ただし、いずれも未完成の段階

1. 「教育的実践力の育成」論を深化・発展させ、ツールの精緻化と教員養成学研究を構築

2. 「教科内容構成研究」の構築と実践プログラムの開発を促進

3. 学部のFD活動を深化・発展させ、「入試・教育・採用」を一貫した組織・システムで改善

4. 現職研修への組織的対応を強化し、学部の社会的使命の拡大と組織的連携を促進